

## 平成 29 年度（2017 年度）事業計画

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

アジア調査会は平成 28 年に五百旗頭真氏を第 8 代会長に迎え、平成 29 年度も引き続き存在感のあるシンクタンクとしてさらなる発展を目指します。

米国でトランプ政権が発足し、その経済、外交・安全保障政策が日本を含む世界に大きな影響を与えつつあります。一方で、中国の南シナ海支配、朝鮮半島情勢の流動化で東アジアの経済、安全保障も激動が予想されます。欧州でも英国が EU（欧州連合）離脱を決めたほか、各国で右派勢力が台頭するなど、世界規模での激変を予感させます。こうした状況の中、アジア調査会は各界の識者、毎日新聞記者の講演会の開催、アジア・太平洋賞の実施、アジア時報の発行などを通じ、アジアを中心とした世界情勢の分析、政策提言を行っていきます。また、昨年はアジア調査会が主導し、五百旗頭会長ほか、宮本雄二理事、川島真東京大学教授による日本記者クラブでの会見を企画し、約 200 人の参加者がありました。発信の場を広げる有効な手段として、今後こうした場を使ったシンポジウムの開催を模索します。

昨年 10 月から毎日新聞と連携し、毎月 1 回、コラム「激動の世界を読む」を毎日新聞オピニオン面とアジア時報への同時掲載を始めました。執筆者はアジア・アジア太平洋賞選考委員の五百旗頭会長（選考委員長）、田中明彦・東京大学東洋文化研究所教授、白石隆・政策研究大学院大学学長、高原明生・東京大学大学院教授の 4 氏です。アジア調査会の貴重な発信の場として今後、活用し発展させていきます。またアジア・太平洋賞をさらに存在感のある賞とするため、今年から受賞者による講演やアジア時報等への原稿掲載を強化し、アジア調査会の「資産」として発展させていきます。

そのためにも財政基盤の充実を図ります。各方面のご協力も得ながら法人、個人会員の拡張を目指しています。経済状況が好転しない中、昨年は急速な法人会員の拡張がままありませんでしたが、会員サービスを充実させ毎日新聞各部門の協力も得ながら張運動を展開します。

一昨年 10 月に刷新したホームページは、アジア調査会の活動を広める一方、アジア時報掲載の論文の一部を素早くアップすることでの確な情報発信を行っています。アジア時報に執筆した若手研究者らが、自らのホームページなどにアジア調査会のホームページ、電子ファイルをリンクするなどしており、今後こうしたネットワークを広げていきます。

### （1）講演会・シンポジウム・研究活動

講演会を東京で年 6 回開催する予定です。講演内容は「アジア時報」に全文掲載し、重要な記録として残していきます。また国際シンポジウムを東京で 1 回、開催する予定です。アジア・太平洋賞受賞者による講演会、さらに会員サービスの一環として、元特

派員らによる講演会も適宜、実施します。年に2～3回開催していたアジア研究委員会  
はメンバー構成を含め、新たな研究会の設立を含め検討します。

(2) 出版

月刊情報誌「アジア時報」を年10回発行します。世界の動きに連動した充実した誌  
面展開を目指します。

(3) ネットによる発信

アジア調査会のホームページをフル活用し、アジア時報掲載の原稿の一部を積極的  
に掲載し世論形成の一翼を担っていきます。

(4) 事業

毎日新聞社と共同主催している『アジア・太平洋賞』は今年度もスルガ銀行さまに特  
別協賛、日本生命さまと三菱商事さまに協賛、全日空にご協力をお願いし、第29回を  
開催する予定です。また『毎日講演センター』の講師斡旋事業を継続して行います。ま  
た、日本僑報社が主催している「中国人の日本語作文コンクール」の後援を継続します。

以上